

令和2年2月定例市議会

施政方針

和歌山市

ただいま上程されました諸議案の審議をお願いするに当たり、私の市政に対する所信の一端と、令和2年度当初予算の大綱を申し述べ、市民の皆様、議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

(国の情勢)

本年1月閣議決定された「令和2年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」によると、令和元年度の我が国経済は、海外経済の減速等を背景に外需が弱いものの、雇用・所得環境の改善等により、内需を中心に緩やかに回復しています。

今後についても、緩やかな回復が続くことが期待されるものの、消費税率引上げ後の経済動向を引き続き注視するとともに、台風等の被害からの復旧・復興の取組を更に加速し、あわせて海外発の下方リスクによる悪影響に備える必要があるとされています。

また、Society 5.0時代に向けた人材・技術などへの投資やイノベーションを喚起し、生産性の飛躍的向上に取り組むとともに、少子高齢化に真正面から立ち向かい、自然災害からの復興や国土強靱化、観光・農林水産業をはじめとした地方創生など重要課

題への取組を行うとしています。

(第2期の総合戦略)

本市においても、平成27年に策定した「和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に続き、地方創生の新たなステージの幕開け、第2期の総合戦略をスタートさせます。第1期の総合戦略で見えてきた課題を克服するとともに、次々と生まれる成長の萌芽を絶やさず、Society 5.0の実現に向けた未来技術の進展など新しい時代の流れを推進力に、「実感」伴う成長への着実な歩みを加速させます。

これまでの取組により、まちなかへの大学の立地が進んでいることに加え、本年4月には、いよいよ新市民図書館がグランドオープンするなど、蒔いてきた成長の種子が芽生え始め、「まち」の発展と変化が見えてきました。この「まち」の成長に加えて、第2期では、「ひと」や「しごと」への投資の重点化を図り、持続可能で未来に希望の持てるまちの実現に向けて、更に地方創生を推進します。

(令和2年度予算のポイント)

令和2年度は、その実現に向けた第一歩として、子供たちの健やかな成長を育む教育環境、子育て環境、そして防災・減災など「ひとへの投資」をはじめ、観光振興や雇用・労働などについて、市民ニーズを踏まえ重点化します。また、障害の有無にかかわらず、子供から高齢者まですべての市民が多様性を認め合い、その個性を生かすことができる、安全で安心して心豊かに暮らすことができる、そうした社会づくりを進めてまいります。

まちの活力を持続可能なものとするため、地域産業の振興、観光の持続的発展など、産業を元気にし、まちを活性化させる取組を重層的に展開します。本年の夏には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、世界中の国から日本に多くの人を訪れる絶好の機会となります。国際空港や港湾からの高いアクセス性を生かし、国内外からの観光誘客を促進するため、より効果的な観光分析や受け入れ環境の整備、多角的な連携による地域の魅力の創造・発信等に取り組みます。

令和2年度予算は、「きらり 輝く 元気和歌山市」に向け、これまでの取組の成果を前進・加速し、弾みをつけることでより高み

を目指し、成長軌道を確かなものにしていきたいという思いから、「地方創生に向けて弾みをつける予算」と位置付けて予算編成を行いました。

以下、令和2年度の主要事業を、4つの柱に沿ってご説明いたします。

◆安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

1つ目は、「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」です。

Society 5.0がもたらす技術革新を通じた生産性の向上の実現や、国際戦略による販路の拡大、ブランディングによる高付加価値化を駆使し、市内産業の競争力の強化に向けた取組を進めます。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、大型クルーズ船の寄港など、国内外からの観光客増加に期待が高まるなか、更なるおもてなしの強化、新たな魅力創出に邁進することで、「和歌山ファン」を更に増やして、域外からの消費の拡大につなげます。

(地域産業の活性化)

市内企業の生産性向上を図るため、A I ・ I o T ・ ロボット等の先端技術の活用を推進し、それらを導入・開発する企業を支援します。併せて、市産品の高付加価値化など、地場産業の振興支援を推し進め、競争力を高めることで、市内産業の底上げを図り、市民の所得向上につなげます。

市内での就職・U I J ターン促進のため、合同企業説明会やインターンシップを通じた就職支援を行うことで、地方創生の基盤をなし、市内産業を牽引し支える人材の確保・育成に努めます。また、拡大しつつある地方への移住ニーズを的確に捉え、実際の人の動きにつなげるため、まちの魅力発信や、就業・起業を促進するための支援金の支給などを通じて、新たな人材の確保に努めます。

農・水産業においては、まずは担い手不足解消のための施策を講じ、従事者の増加を図ります。同時に、農・水産物のブランド化や、プレスツアー等を通じたP Rにより付加価値を更に高めるための支援を行うことで、強い農・水産業づくりを目指します。

リニューアルされる四季の郷公園には、本市初となる道の駅がオープンします。入口周辺の味覚ゾーンでは、農産物直売所や地域食

材を使った料理を提供するレストランなどを利用いただき、本市の野菜や果物のPR、地産地消の推進につなげます。加えて、区画の一部をお貸しし、実際に農業の魅力に触れることのできる体験農園を設置します。本市の豊かな自然を生かし、食と農と観光が一体となった魅力ある体験の機会を提供します。

国際拠点港湾である和歌山下津港を活用し、国内外に向けた販路の拡大を目指します。これまでの国際交流で培った信頼関係を生かし、本市の農水産物や製品のPRを行います。また、本市の特産物であるマダイやアジアカエビ等の今後の輸出増加にもつなげるため、場内のコールドチェーンに対応した中央卸売市場の再整備を進めます。

(観光の持続的な発展)

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、選手の事前合宿を全力でサポートするとともに、4月の聖火リレーの際には、和歌山城で出発式を実施し、来たるスポーツの祭典への期待と関心を呼び起こします。また、「みんなの想火」プロジェクトとして、全国で行われるイルミネーションイベントの開催を支援し

ます。使用する竹あかりを、皆様の手で作っていただくワークショップ等に参加いただくことで、まち全体の機運を高めます。東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を魅力発信の好機と捉え、東京2020公認文化オリンピックアード「ニッポンたからものプロジェクト」などを通じ、日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」の魅力の発信を続けるほか、令和元年度からは、和歌山城の大名行列や紀州藩に仕えた人々を再現するなどの取組を進めてきました。多くの人が集まるこの機を逃さず、本市の歴史や文化芸術を広く発信することで、国内外からの誘客につなげてまいります。

本市の海の玄関口である、和歌山下津港への大型クルーズ船等の誘致を推進します。本年は、10月18日から19日にかけて、日本航客船では過去最大となる17万トン級のクルーズ船「MSCベリッシマ」を新たに迎えます。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会やクルーズ船の寄港などをきっかけに国内外から本市を訪れていただいた方々をおもてなしするため、多言語版和歌山ラーメンマップの作成やタクシーのマナー向上の取組など、観光客受入環境の整備を推進します。最高の思い出になるようなおもてなしを実施することで、リピーターを

増加させるとともに、和歌山城など市内観光への誘導、市製品のPR等により、消費の拡大を図ります。

加えて、周辺他市と連携し、レンタカー利用者向けの広域観光ルートを相互発信することで、相乗効果を狙います。関西国際空港等からレンタカーを利用して観光を行う方をターゲットにすることにより、インバウンドを含めた観光誘客の促進を図るとともに、本市が和歌山県全体のゲートウェイとなることで、本市を訪れる機会の創出につなげます。

昨年1月のふるさと観光大使就任以来、HYDE氏には市のPR等、大活躍していただきました。「#なんて素敵な和歌山なんでしょう」のハッシュタグとともに、SNS等を通じて魅力を積極的に発信いただいたり、自身のコンサート会場で和歌山産品を販売して下さったりしたことで、多くの方に本市を知っていただき、交流人口や関係人口の増加につながりました。本市としても、この機を逃さず、市役所本庁舎1階にふるさと観光大使就任記念ギャラリーを設置したほか、南海電鉄で運行中の「HYDE サザン」やHYDE氏本人による森林公園へのアジサイの植樹など、ファンの方々がますます訪れたいくなるきっかけづくりを行いました。令和2年度

は、ギャラリーの拡充など、更なる魅力の創出を図ってまいります。

加太地域においては、地元住民や民間企業、大学等との連携により魅力向上を目指すとともに、観光客の方々が安全で快適に楽しめるような環境の整備を進めます。また、堀米ゆず子氏による和歌山市青少年国際交流センターでのマスタークラスなどによる芸術村の継続や、「紀の国わかやま文化祭2021」のプレイベント「(仮称)友ヶ島芸術祭」などの開催を通じ、新たな魅力を創造することで、加太地域が、音楽・現代アート・サブカルチャーなど、様々な文化芸術の一大拠点となることを目指します。

724年(神亀元年)に万葉歌人・山部赤人が和歌の浦で歌を詠んでから、まもなく1300年を迎えますが、日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」を舞台に国内外の方々を万葉の世界へと誘うため、今もその眺望に当時の面影を残す奠供山の麓に、歴史と万葉の拠点となるガイド施設の整備を進めます。併せて、明光通りの再生に向けた取組や道路の美装化・無電柱化を推進することで、美しいまちなみの形成を図ります。

◆ 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

2つ目は「住みたいと選ばれる魅力があふれるまち」です。

平成30年に東京医療保健大学、平成31年に和歌山信愛大学が開校し、本年4月には県の誘致により宝塚医療大学が開校予定となっております。約550人ももの大学生がまちなかに集まることとなります。4月24日には、南海和歌山市駅に市駅前再開発ビル、新市民図書館がグランドオープンするなどまちなかの拠点の整備が進み、まさに本市のまちなかは変わり始めています。このまちなかの活性化を更に加速させるため、その拠点を生かし新たな仕掛けづくりをすることで、「点」から「線」に、「線」から「面」に広げてまいります。

(歩きたくなるまちなか創生)

市駅前再開発ビルの完成に加え、駅前広場の整備を進めることで、自然豊かで歴史ある紀州の玄関口に生まれ変わり、新市民図書館は、通勤・通学や買い物などと合わせながら、誰もが本に親しみやすい施設となり、賑わいを創出する拠点となります。

本市のシンボルである和歌山城は、年間約20万人の観光客を迎

える施設であることから、天守閣について、将来的な木造再建を視野に入れつつ、安全面を考え、耐震補強を実施する方向で検討を進めます。また、更なる魅力向上のための取組として、和歌山城公園動物園の展示環境及び園内施設を改善し、動物園内の景観を向上させるとともに、身近に動物を鑑賞することができる環境の整備を実施します。併せて、忍者をテーマにし、ARを活用した企画イベントなどを行うことで、インバウンドも含めた誘客を図ってまいります。現在整備を進めている新市民会館は、広く市民に親しみを持っていただけるよう名称を広く公募し、「和歌山城ホール」と名付けられました。まちなかの中心という好立地を生かし、市民の文化芸術活動を発信する場、賑わいの文化交流拠点となるよう押し進めてまいります。

人々が集い憩うことのできる魅力ある都市空間の形成と回遊性の創出を図るため、（仮称）城前広場や京橋親水公園、1階部分に店舗を併設した（仮称）市営北駐車場の整備を進めます。和歌山城、とぶらくり丁との動線を描くため、市道中橋線の整備とともに、京橋親水公園の整備に併せて歩道を新設し、食べ歩きのできる空間を創出します。さらに、魅力的な夜間景観を創出するため、市堀川や

中橋のライトアップを継続し、京橋プロムナードのガス灯のLED化も実施します。

平成27年度から始まったまちなかイロドリ事業では、対象とした空き家物件のうち、9物件が開業に至っていることに加え、行列ができるような人気店も誕生するなど、賑わい再生の兆しが見えてきました。引き続き、まちなかの魅力的な店舗の増加を促進します。また、これまで、個人向けに実施し、成果をあげてきたリノベーションスクールは、来年度から新たに市内中小企業や家守会社を対象としたスクールとして開校することで、更なる遊休不動産の活用を目指し、事業化を促進します。

これらの「点」から「線」に変わりつつある良い流れを、「面」として広げていくため、南海和歌山市駅前やJR和歌山駅などにおける新たな整備の可能性について、引き続き検討を深めてまいります。

また、和歌山大学の学生をはじめとした学生のまちなか居住や学生間の交流にもつながるよう、空き家のシェアハウスとしての活用を促進します。

（個性を生かし愛着を育む地域づくり）

各地域の特性を生かした住民主体のまちづくり活動への支援や地域における活動拠点の整備等を通じ、愛着を育む地域づくりにつなげます。太平洋岸自転車道の終点となった加太港では、サイクリング拠点のシンボルとしてモニュメントを設置するなど、個性と魅力に磨きをかけます。また、A I やビッグデータ等を活用し、未来生活を先行実現するスーパーシティ構想を推進してまいります。

さらに、拡大しつつある地方への移住ニーズを的確に捉え、関係人口の創出・拡大や、実際の人の動きにつなげるため、東京大学加太分室との緊密な連携等により、地域の魅力向上を図るとともに、移住フェア等への出展やSNS等を通じた市内外への発信力を強化します。

昨年7月、文化芸術施策を総合的かつ計画的に推進するため、和歌山市文化芸術基本条例が施行されました。国内最大の文化の祭典である「紀の国わかやま文化祭2021」の大いなる成功につなげるため、イベントとして、「(仮称)友ヶ島芸術祭」を開催し、友ヶ島の歴史と自然から想起されるようなアート作品を展示することで、その魅力を国内外に広く発信し、文化芸術活動の機運を高め

ます。

代表作『紀ノ川』などで知られる本市出身の作家・有吉佐和子氏の邸宅を南海和歌山市駅周辺に復元します。数々の小説を生んだ執筆の裏側や作家としての歩みを育んだ生活空間を通して、その人柄に触れ、交流の場とすることで、より深い作品理解へとつなぐとともに、新市民図書館との相乗効果により、その魅力を市内外に広く発信し、「有吉文学」の礎を後世に伝え、本市の文化芸術活動の振興を図ります。南海和歌山市駅に隣接し、まちなかに365日開かれる新市民図書館では、本と身近に出合える新たなライフスタイルを提供します。カフェやキッズエリアなどを併設し、時に時間を忘れるほど読書に夢中になれる空間を演出することで、生涯にわたり自主的な読書活動を続けていきたくなるよう取組を推進します。

市民の皆様をはじめ、多くの方に愛されてきた「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」が本年度で開催20回の節目を迎えます。これを機にハーフマラソンのスタート地点を和歌山城に変更し、名称も「和歌山ジャズマラソン」に変え、装いを新たにするとともに、多世代がスポーツを通じて交流できる拠点の整備を進めてまいります。

◆ 子供たちがいきいきと育つまち

3つ目は「子供たちがいきいきと育つまち」です。

次代を担う子供たちの輝ける未来に、重点的に投資し、「子育て環境日本一」を目指します。深刻さを増す少子化の問題から決して目を背けることなく、本市の未来を明るく活力のあるものにするため、結婚から子育て期までの切れ目のない支援を行い、子育て世代の負担を軽減します。また、子供たちが、安全・安心で快適な教育環境の下、豊かな創造力と社会を生き抜く力を育み、夢に向かって未来を切り拓くことができる教育を進めるなど、子供を中心に考えた取組を推進します。

(子供を産み育てやすい環境づくり)

昨年10月、幼児教育・保育の無償化が実現しました。本年4月からは、高等教育の一部無償化など教育の無償化の幅広い実施により、子育てに係る費用負担が軽減され、将来世代の活躍の後押しとなります。

本市においても、就学援助の更なる充実を図るなか、次代を担う子供たちの健やかな成長を支えるため、市内4か所の保健センター

に設置した子育て世代包括支援センターにおける妊娠期から出産、子育て期までの様々な相談への対応など、切れ目のない支援を通じて、子育ての安心感を高めることで、仕事と家庭の両立が叶う社会を目指します。

年々増加する児童虐待への対策を強力に推進します。本年1月、新しいこども総合支援センターに、「子ども家庭総合支援拠点」を設け、すべての子供とその家族、妊産婦の方々等を対象に、実情把握をはじめ、専門的な相談対応や訪問等により、切れ目のない寄り添い型の支援を行います。また、健やかな親子関係の構築に向けた「前向き子育てプログラム」の充実や、民生委員等との連携など機能強化を図るとともに、里親宅へのショートステイにより育児負担の軽減を図るなど、早い段階での「気づき」につなげ、県の児童相談所との役割分担と緊密な連携の強化により、児童虐待の早期発見・防止に努めます。

(夢に向かって未来を切り拓ける教育)

子供たちが夢に向かって未来を切り拓くことができるよう、社会の変化に対応し、強く生き抜く力を育むための教育を推し進めます。

学習指導要領が見直され、来年度より、小学3年生から外国語活動が、小学5年生からは教科としての英語が全校でスタートします。英語での、より質の高いコミュニケーションの機会を増やすため、外国語指導助手であるALTを増員し、国際化社会における異文化理解・国際感覚の涵養を推進します。また、Society 5.0を支える基盤である5G（第5世代移動通信システム）の商用サービスがまもなく開始されるなど、今や社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっており、教育現場の在り方も変化が求められています。新たに整備する普通教室のWi-Fi環境下において、ICTを活用した授業づくりやプログラミング学習の研修を進め、持続可能な社会の担い手として、社会の形成に参画するための資質・能力の育成を図ります。

小中学校においても、本に触れ、読書を行う機会を創出するため、学校司書の増員を行うことで、生涯読書の推進につなげます。図書室の活用や本の紹介などを通じて読書の魅力を伝え、継続的な読書活動につなげることで、子供たちが感性を磨き、豊かな表現力・創造力で人生をより深く生きる力を身に付けられる環境をつくります。

また、教員の能力向上や、専門的な知識を持った人材の配置によ

り、教育環境における子供の学びをサポートするとともに、今年度、すべての市立学校への導入が完了したコミュニティ・スクールなどを通して、地域や家庭との連携を今まで以上に強化することで、より綿密な体制で子供の成長を支えます。さらに、老朽化した教育施設・設備の更新を進めるほか、関係各所と連携して通学路の合同点検を行うなど、安全・安心で快適な教育環境の整備を進めます。

◆ 誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

4つ目は「誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち」です。

市民の暮らしの確かな安全と安心を確保するため、防災・減災対策の強化や河川改修等による治水対策を推進するとともに、生活を支える道路網の整備を進めます。さらに、便利で持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指し、取組を進めるとともに、豊かで安全な暮らしを支える住環境を整備します。

医療・介護については、関係機関の連携を推進するとともに、予防への取組を強化することで、いつまでも健康で、活躍できる「生涯現役の社会づくり」の推進につなげ、障害の有無にかかわらず、すべての市民が安心できる持続可能なまちを目指します。

(市民の安心・安全の確保)

本年1月に発生した花山交差点内での漏水においては、市民の皆様には多大なるご迷惑をおかけする結果となってしまいました。先般の花山水系漏水に関する特別委員会等の結果を踏まえるとともに、今回の教訓を生かし、適確な水道行政に努めてまいります。

安心・安全で安定した水の供給や、大規模地震など災害時の飲料水の確保を行うため、基幹となる浄水場や配水池の更新を進めるとともに、老朽化した配水管の更新、耐震化等を拡充してまいります。

昨年10月には、台風19号により、関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害が発生しました。計140か所で堤防が決壊するなど、気候変動の影響による豪雨の頻発化・激甚化に加え、社会構造の変化による人口減少や少子高齢化などの様々な変化を想定する必要があるため、複雑多様化する各種災害に対応するため、市民の命を守る防災・減災の強化に努めます。

河川洪水時における命を守る避難を促進するため、紀の川、和田川、亀の川のハザードマップを配布するとともに、公共施設や民間ビル等の一時避難場所の増加に向けた取組を進めます。

紀の川においては、国の事業として、堆積土砂の撤去など治水対

策が進められていますが、内水対策の推進や紀の川大堰付近の新六箇井堰の撤去など抜本的な治水対策を国へ要望します。また、県管理河川の改修とも連携し、永山川等の準用河川の改修を進めるとともに、適切な維持管理を実施します。

市街化区域では時間雨量50ミリに対応する浸水対策として、松江雨水ポンプ場などの雨水ポンプ場の整備を実施するとともに、雨水幹線整備等を推進します。

令和元年度末において、139基が完了予定となっている防災行政無線の再整備について、可聴範囲を更に広げ、避難情報等を提供するため、令和2年度においては累計204基の完了を目指すとともに、消防車両の更新を実施します。また、大規模災害発生時、全国からの消防機関等を受け入れるなど、体制強化を図るための施設として、和歌山市消防活動センターを整備します。

(豊かで暮らしやすい地域づくり)

交流人口・物流の拡大、自動運転化への観点から、地域間の道路ネットワークを構築するため、引き続き、国、県に対して京奈和自動車道の延伸を要望し、自動車専用道路等の和歌山高速環状道路の

実現を目指します。

今福神前線、有本中島線などの、重点整備区間道路である都市計画道路の整備を着実に進めるとともに、地域の安全・安心・便利な生活を支えるため、生活道路・通学路の整備として、黒谷黒岩線などの新規路線、坂田磯の浦線などの継続路線の整備を進めます。また、橋梁の長寿命化・耐震化の対策やトンネル等の道路施設の点検及び老朽化対策など、道路の適正管理を図ります。

近年、本市においては、公共交通利用者が減少し、バス路線等の廃止や減便といった問題が相次いでいます。公共交通を必要とするすべての人にとって安心、安全に利用できる公共交通ネットワークを形成するため、和歌山市立地適正化計画に位置付けられた中心拠点と地域拠点を結ぶ持続可能な公共交通ネットワークの構築を図るとともに、便利で充実した二次交通の検討を進めます。

バス路線の廃止や減便などによる公共交通不便地域を解消するため、デマンド型乗合タクシーを運行するとともに、地域バスの導入に向けた実証実験を実施します。また、インバウンドを含む観光客や、通勤、通学などの二次交通としてのシェアサイクル導入及び次世代の交通サービスであるM a a S等の検討を進めます。

地震災害に強い安全なまちづくりを推進するため、耐震化改修等に対する支援や周知を実施するとともに、地震によるコンクリートブロック塀等の倒壊による被害の軽減及び避難経路の寸断を防ぐため、ブロック塀の除却等に対する支援を実施します。また、本市の空き家数は、ここ25年間において、おおよそ2倍に増加しており、空き家の対策として、発生抑制に向けた啓発や交流拠点化など利活用を推進します。また、不良空家除却への支援を拡充するとともに、特定空家等への取り組みを強化します。

(誰もが元気に生涯活躍できるまち)

障害のある方の自立と社会参加の更なる促進に向け、職場開拓推進員による企業訪問や相談支援に加え、協力事業所でのインターンシップの推進や助成金の交付を通じ、一般就労の推進と定着化を図ります。

また、JR和歌山駅西口広場や東部コミュニティセンター、市民体育館の障害者用駐車スペースに雨除けのシェルターを設置するとともに、JR紀三井寺駅へのエレベーター設置支援、公共施設等のバリアフリー化を進めます。

高齢化の進展とともに、年々増加するひとり暮らしの高齢者の方々が、孤独感や不安感を抱くことなく、認知症を予防し、いつまでも笑顔でいられる秘訣は、食事、運動、学習、そして交流にあると考えています。日常生活の悩みや困りごとなどを抱え込み、閉じこもりや地域での孤立がないよう、地域とのつながりや生きがいにつながる市民大学や公民館等での生涯学習・生きがい活動を促進します。

また、日常生活上の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で在宅生活を継続していくために必要となる多様な主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するとともに、地域の課題を他人事としてではなく、「我が事」として捉え、子育て、介護、認知症等あらゆる相談を「丸ごと」受け止める「我が事・丸ごと」の地域づくりを進めます。

予防・健康づくりによる健康寿命の更なる延伸を加速させます。目的や体力等に応じて選択できる「5つの健康・予防プログラム」に加え、県の運動ポイント事業を利用した自治会等による自主的な健康づくりを推進することで、運動習慣の定着化を図ります。また、疾病予防のため、AIの活用等新たな手法の導入による受診勧奨やインセンティブの強化により、受診率の向上を図ります。

人生100年時代を迎えようとする今、住み慣れた地域で、一人ひとりが、元気に生涯活躍でき、安心して暮らせる社会に向けて、取組を推進してまいります。

以上が、令和2年度の主要事業です。

この予算の規模は、

一般会計	1, 503億1, 430万3千円
特別会計	989億6, 259万3千円
公営企業会計	400億2, 493万6千円
総計	2, 893億 183万2千円

で、前年度に対する増減率は、一般会計で4.1%の減、特別会計で1.3%の増、公営企業会計は2.7%の減となり、全体では2.1%の減となっています。

一般会計の歳出は、和歌山城ホールや消防活動センターの整備、障害者総合支援費等の社会保障費などで増となったものの、新市民図書館の整備や市街地再開発事業の終了を迎え、総額として減となりました。

一方、一般会計の歳入は、市税で企業の設備投資による固定資産

税の伸びを、また消費税率の引き上げにより地方消費税交付金の増をそれぞれ見込んでいるため、基準財政収入額が増となり、臨時財政対策債を含む実質的な地方交付税額は減となりますが、歳入一般財源の総額としては増加を見込んでいます。

この結果、令和元年度の国補正等も活用して財源確保に努めたこともあり、令和2年度当初予算では令和元年度当初予算編成時より財源不足額を縮小しました。

次に、特別会計では、国民健康保険事業で減額となったものの、介護保険事業及び後期高齢者医療で給付の増、駐車場管理事業で市営北駐車場整備事業費の増、国道42号和歌浦地区の歩道整備に係る直轄事業用地先行取得事業費の増などの増額要因により、特別会計全体で増額となりました。

また、公営企業会計では、水道事業会計で配水管更新事業は拡充により増となったものの、真砂配水場建設事業の完了に伴う建設事業及び真砂浄水場運転管理委託に係る経費の減などによる減額、また、下水道事業会計で借換債の減少による企業債償還金の減などによる減額などが主な要因で、公営企業会計全体で減額となりました。

今後とも、事務事業の見直しや事務の効率化を進めるとともに、

行財政改革を継続的に推進し、規律ある市政運営を行うことで、市民にとって不可欠な行政サービスの安定的な提供に努めてまいります。

この新年度予算を、「地方創生に向けて弾みをつける予算」と位置付け、盛り込んだ事業を着実に実行することによって、「きらり輝く 元気和歌山市」の実現を目指し、市政運営に全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、議員の皆様におかれましては、慎重ご審議の上、何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。